朝中新聞部活

地学部

私立・海城中学校（東京都新宿区）

部員数　約40人（中高合わせて）
活動日・時間　火・水・木・土、平日は2時間ほど（休日や長期休暇中は野外に出かけることも）
部の創設　2008年
学校の創立　1891年
校長　水谷弘先生

大地や宇宙を相手に調査

自作プラネタリウムに予約殺到

海城中学地学部のみなさん＝東京都新宿区の同中で

部室をのぞくと、歯ブラシで石をこする姿が目に入ります。そばには寒天作りに励む部員もいます。一目見て部活の名前を言い当てるのは難しそうです。

地学は大地や水、宇宙など世界を形づくる物質を相手にする学問です。「地質」「天文」「気象・水文」「自然災害」など班に分かれて活動しています。班のかけ持ちもできて、週1回開く部会で情報を共有したり、部の掲示板で野外調査の参加を呼びかけたりします。

地質班がこすっていたのは多摩川で採取した化石入りの石。「クリーニング」という作業でマルヒナガイなどの化石を取り出し、大きさや向きを記録します。寒天は自然災害班が地震による断層のでき方を再現する実験で使う材料でした。

天文班は人工の光が夜空の明るさに影響を与える「光害」の調査結果をまとめていました。愛知県の高校を中心とした全国調査に参加し、10月から観測を始めました。「屋上と地上、晴れとくもりでの明るさの違いがわかり、今後、大都市である新宿と日本各地との比較が楽しみです」と西尾真輝君（3年）。

研究者の前で発表 プレゼン力も磨く

調査で得られた成果は大人の研究者が集まる学会で発表します。わかりやすく伝えるため、ポスターなど資料製作に使うパソコンの技術やプレゼンテーションの力を磨いています。

特に熱が入るのが9月の文化祭です。今年は高校生の部員が栃木県で見つけたイルカの化石を展示し、南極の砂などを顕微鏡で観察できるコーナーを設けました。約7千個の穴を開けた自作のプラネタリウムは大好評で、予約で1時間半先まで埋まったそうです。「小学生の時に訪れたが、内容がとても充実していて親にも勧められた」（金谷洋紀君・1年）と、入部のきっかけになった部員もいます。

創部からまだ5年。全国で予選が開かれる「地学オリンピック」本選出場が今後の目標です。

（松村大行）

中学生部長　小野寺祐樹君（3年）の話

フィールドワークが最高！

なんと言っても岐阜や山梨など他県にも出かけるフィールドワークが楽しいです。文化部だけど体力がつきます。新宿という大都会でも自然を楽しめるのが魅力です。学校の勉強になかなか結びつかないのがたまに傷ですが……。

顧問の上村剛史先生の話

「本物」を見ることを重視

地学が扱うのは大地や気象、水など身の周りにあるものです。資料集でも見られますが、実際に出かけて「本物」を見ると大きさなどそのすごさが伝わります。教室ではできない実感を大切にしています。

主な活動

地質班　多摩川などで化石入りの石を採集＝写真右、上村先生提供。廃鉱山では鉱物を採取して分析します。地形の調査もしています。

天文班　夏の天文合宿や文化祭の時に活躍します。プラネタリウム＝写真下、同＝の制作費は2万～3万円ほどでした。

気象・水文班　雲量や気圧といった気象データを集めています。創部以来、学校から徒歩30分ほどの公園でわき水の定点観測を継続中。